秋田きらり支援学校は肢体不自由者・病弱（身体虚弱）者である児童生徒に対する教育を主として行う特別支援学校です。

地　域　支　援　だ　よ　り

きらりNet

平成２２年７月１６日
第３号
秋田県立秋田きらり支援学校
地　域　支　援　部

秋田きらりの給食

今回は、秋田きらり支援学校の給食について紹介します。

◆ どんな給食なの？

食べ物をかむ力や飲み込む力などに応じて、だいたい３つの食形態で提供しています。

ある日の給食献立例です。

今日の献立は「ポークカレー」です。

①普通食

細かくします。

②中・後期食(きざみ食)

一口大から、細かいきざみまであります。

さらに細かく。

③初期食(ブレンダー食)

形や粒がなくとろとろです。

◆ どこで食べているの？

主にエリア３校で使用する「ランチルーム」で食べています。自然な色合いになる照明で、食欲がわきます。

ランチルームでの給食の様子です。通学生がランチルームで給食を食べています。
ランチルーム右の方は聾学校と盲学校のコーナーです。

◆ 学校栄養士さんから

給食づくりでは、栄養のバランスが整っていること、季節感のある食材を使うこと、様々な味付けをすることに心掛けています。
給食時間が楽しい時間であることを願っています。

次号は８月２７日発行予定です。

秋田きらり支援学校は肢体不自由者・病弱（身体虚弱）者である児童生徒に対する教育を主として行う特別支援学校です。

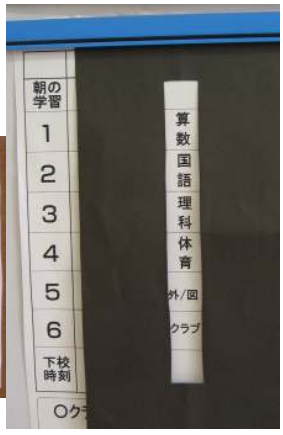
連載　本校の授業の様子から

小学部の学習の様子　～学習のためのちょっとした工夫～

秋田きらり支援学校では、一人一人の実態に合わせた教育活動を行っています。

小学校と同じ教科書を使い学習を進めている学習グループもありますが、ちょっとした工夫を加えることにより、児童の障害特性に応じた学習環境を整えていくことができます。たとえば、握ったり、押さえたりすることに難しさのある児童には、鉛筆に市販のゴムグリップをつけて字を書きやすくしたり、ノートやプリントの下に市販のすべり止めマットを敷いて、ノートやプリントが動いてしまうことを防いだりしています。

また、視知覚の特性から、一か所を集中して見ることに難しさのある児童には、スリットの入った台紙を用いることで、時間割の確認をしたり、文章を書き写したりする際の間違いが少なくなるようにしています。



『秋田県立医療療育センター』について　その１

今年度、「きらり Net」では、本校と隣接する秋田県立医療療育センターの紹介を行っていきます。今号では『入院・入所部門』について紹介します。

入院・入所部門

【　杉の子病棟　】肢体不自由児施設　～定員６０床～（６月末現在利用状況　３７名）

○入院での治療訓練を必要とする肢体不自由の子どもたちが対象です。

【　ひばり病棟　】重症心身障害児施設　～定員４０床～（６月末現在利用状況　２２名）

○入院での治療訓練を必要とする重症心身障害の方が対象です。

※杉の子病棟には、療育訓練や家庭での看護技術の指導を行うための病床２５床が含まれています。

※４３名の児童生徒が医療療育センターから、本校に通学しています。（児童生徒数１１３名）

次号以降、『**外来診療**』、『**総合相談・地域療育支援センター**』、『**発達障害者支援センター（ふきのとう秋田）**』、『**通園部門**』、『**短期入所・日中一時支援**』について紹介していきます。

秋田きらり支援学校に相談・見学の希望がありましたら、下記までご連絡ください。

教頭　籾山　節子　　**地域支援部　松井　智子**

住所：〒010-1407 秋田市上北手百崎字諏訪ノ沢３番 127

E-mail：kirari-s@akita-pref.ed.jp

電話：018（889）8573　　FAX：018（889）8575

次号は８月２７日発行予定です。